

ポジティブ思考 アレルギー改善

山梨大研究グループ

前向きな気持ちで花粉症などのアレルギー症状を改善させるとする研究結果を、山梨大の中尾篤人教授(アレルギー学)らの研究グループが発表した。ストレスが体調不良につながる知見があったが、ポジティブな思考が免疫に関係することを示したのは初めてという。

花粉症やぜんそく、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患は、精神的なストレスで症状が悪化することが、経験的・疫学的に知られている。また、薬の臨床試験では「薬が効く」という前向きな感情から、本当は薬ではないものを飲んでも症状が良くなる「プラセボ効果」で効果の判定が難しくなることも知られていたが、根拠は不明だった。

グループは、脳内で前向きな感情をつかさどる「ドーパミン報酬系」と呼ばれる神経回路に注目。マウスを使った実験で、さまざまな方法でこの回路を活性化させ、その後に行えるじんましんの大きさを調べた。回路の活性化は、遺伝子技術を活用して人為的にピンポイントで回路を操作▽体内でドーパミンに変化する物質を投与▽人工甘味料を投与▽の3つの方法で行った。活性化後は、いずれも通常より平均4割程度、じんましんの面積が小さくなったという。【松本光樹】